

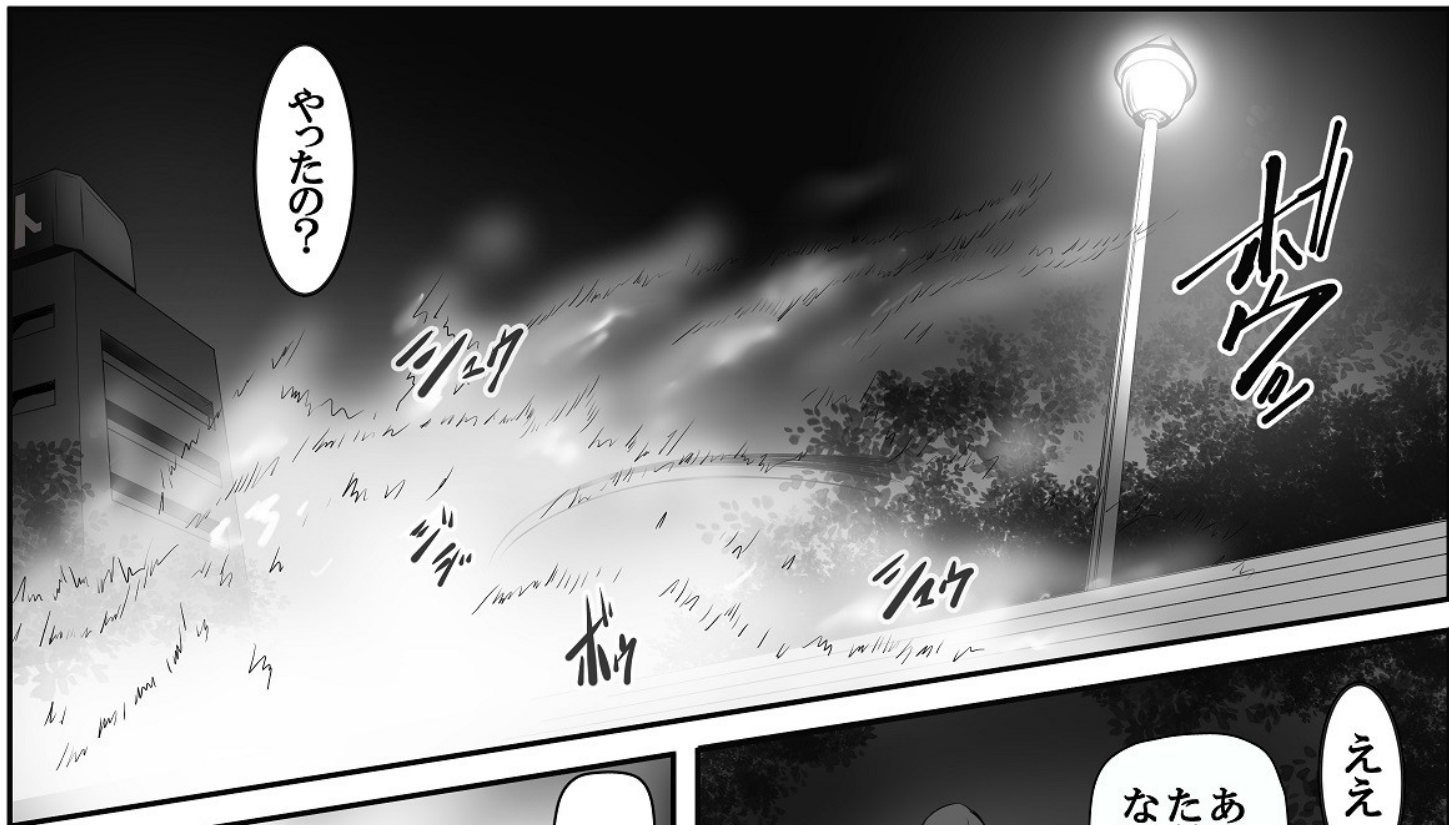


魔悦の淫門

MAETU NO INMON

～邪淫の門は闇夜に開く～

act01. 美しき女刑事が墮ちる夜



やったの？

ホウ

ホウ

ホウ

ホウ

ホウ



ちよつと多過ぎない

いくらなんでも



ええ

あなたの睨にらんだ通り
ただの痴漢男じゃ
なかったわね

さすがだわ
彰子さん

良かった
やつぱり彩乃さんに同行
してもらって正解だったわ

……それにしても
これで今月だけで
5件目の魔傀案件よ

ええっ

確かに多いわね

ひよつとしたら
厄介な闇門ゲイトがどこかに
出現しているのかも
しれないわね……

それも
人間の邪心や私欲に干渉し

妖魔の隷まかい魔傀まかいに
変貌させるほどの
かなり凶悪な闇門ゲイトが

……なるほど

確かにそれなら
説明はつくわね
でも……

だとしたら
相当面倒ね

女退魔師
神咲彩乃

そうね
かなりのハードワークに
なるかもしれないわね

でも閻門^{ゲート}はこの前二つ
封印したばかりよ

そんなに簡単に
しかもこんな短期間に
次々と現れるものなの？

警視庁特務科第7班 刑事
秋月彰子

起こってほしくはないけど
十分考えられるわね
それだけこの街には
人々の邪な欲望や悪意が
充満してることだから

この街には環境が
整ってるってわけね

じゃあなおさら
放つてはおけないわね
そんな危険な閻門は
一刻も早く封印しないと

短期間の閻門の出現や
その閻門を介してこれまで
戦ったことのないような強くて
凶暴な妖魔の侵入を許している
としても何ら不思議じゃない

こんな凶悪な化物を
次々と造られたら

たまつたもんじゃないもの

危険な仕事に
なるわよ

これまですば
比喩物にならない
くらいに

ええ分かってる
でもやるしかないでしょ

——それにしても
何度見ても気分が悪い光景ね

こんなおぞましい骸むろになるために
生まれてきたわけじゃないでしょうに……

家族が見たらどれほど悲しむか

卑劣な痴漢行為を繰り返し
闇門ゲートに干渉されて魔傀に堕ちた拳句
最後は戒めの炎に身体を焼かれながら
跡形もなくこの世界から消えていく

惨めな最期ね

一体どこで道を踏み外して
しまったのかしらね……

魔傀に堕ちたら最後
その魂は二度と
救済されることはない

これが悪魔に誑たぶらかされ
魂を差し出した者の
哀れな末路よ

だからこそ私達で
やらなきゃいけない
これ以上哀れな犠牲者を
増やさないために——



こちら側と向こう側は紙一重である。

不可侵の領域で隔たれた二つの世界
私達のいるこちら側の世界Ⅱ現世と、向こう側の世界Ⅱ魔界

とはいえ、ほとんどの人々はその世界の存在など
知ることも無く人生を全うする
それはとても幸せな事だ

もし仮に、その存在を知ってしまったら、
関わるような事があれば、
それは不幸でしかない。


しかし近年

この二つの次元を隔てる障壁にある種の歪みが生じ
こちら側に様々な悪影響を及ぼすようになっていた。

治安の悪化、凶悪犯罪の増加などその影響は多岐にわたり
中でも深刻なのが魔傀まかいと呼称される人や生物の異形化、
そして、向こう側の種Ⅱ妖魔の侵入だった。

私達は、その歪みを閻門げんとと呼び、魔傀や妖魔を討伐しながら
その封鎖や排除に、人知れず力を尽くしていた。





私が彼女とある事件で知り合い
その仕事に手を貸すようになって
もう3年が過ぎた

いったいこれまで
どれほど多くの
妖魔や魔傀を排除し
次々と現れる闇門^{ゲート}を
封印してきたことが

無論、特殊な能力など殆どないただの刑事である
私一人の力では、到底、不可能な話だ

でも……それでも私はやり続ける
この街から、いや、この世界から不幸な
犠牲者をこれ以上増やさないために

彼女の協力者である私に
出来ることといえば
せいぜい魔傀や妖魔などの
関与が疑われる凶悪犯罪や
不審者などの情報を提供し
今日のように彼女の退魔業
をサポートすることぐらい



ハルトとミナミも
元気にしてる？

久しぶりに皆の顔
見たくなくて

来月ぐらいには
帰れると思うから……



ククツ……

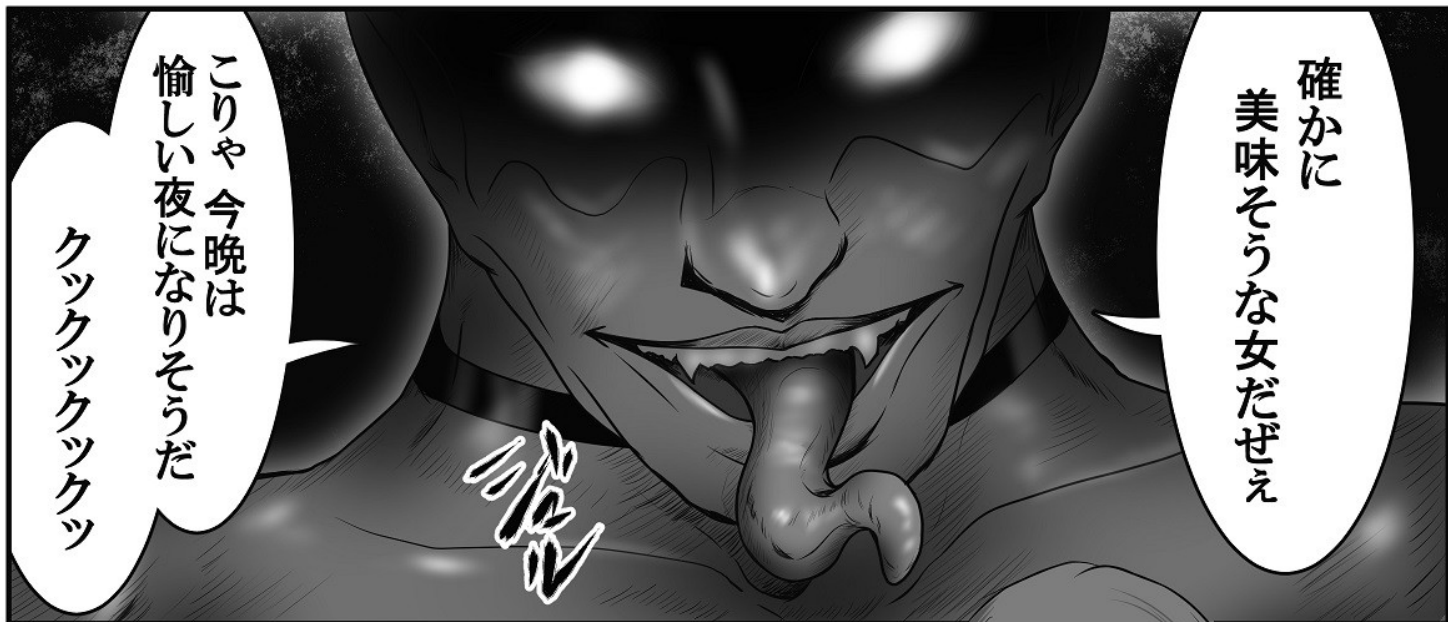
いたいた



もしもし玖瑠美
ごめんね こんな時間に

ううん 何でもない
かあさんに連絡しようと思
ったけど遅くなったから

元気にしてる？
うん……
……そう……



確かに
美味そうな女だぜえ

こりや今晚は
愉しい夜になりそうだ

クツクツクツクツ



あのお……
すいません



卒園式か……

ちよつと見ないうち
もうこんな大きくなつて



えっ!?……



ご存知ですか？

この公園
最近 痴漢が出るらしいですよ



あらそれは
ご親切にどうも

それで
あなたこそ その痴漢が出る公園で
こんな時間に何をしてるのかしら



いけませんなあ
レデイが一人でこんな時間に

しかも こんな物騒な公園を
ほつき歩いてわ

あつ!? これは失礼
申し遅れました

私は通りすがりの変態

決して怪しいものではない
ありませんのでご安心を

バカなの……こいつ!?

魔傀か それとも妖魔の類か

いずれにせよ迂闊だった
まさかもう一体潜んでいたなんて
しかも——

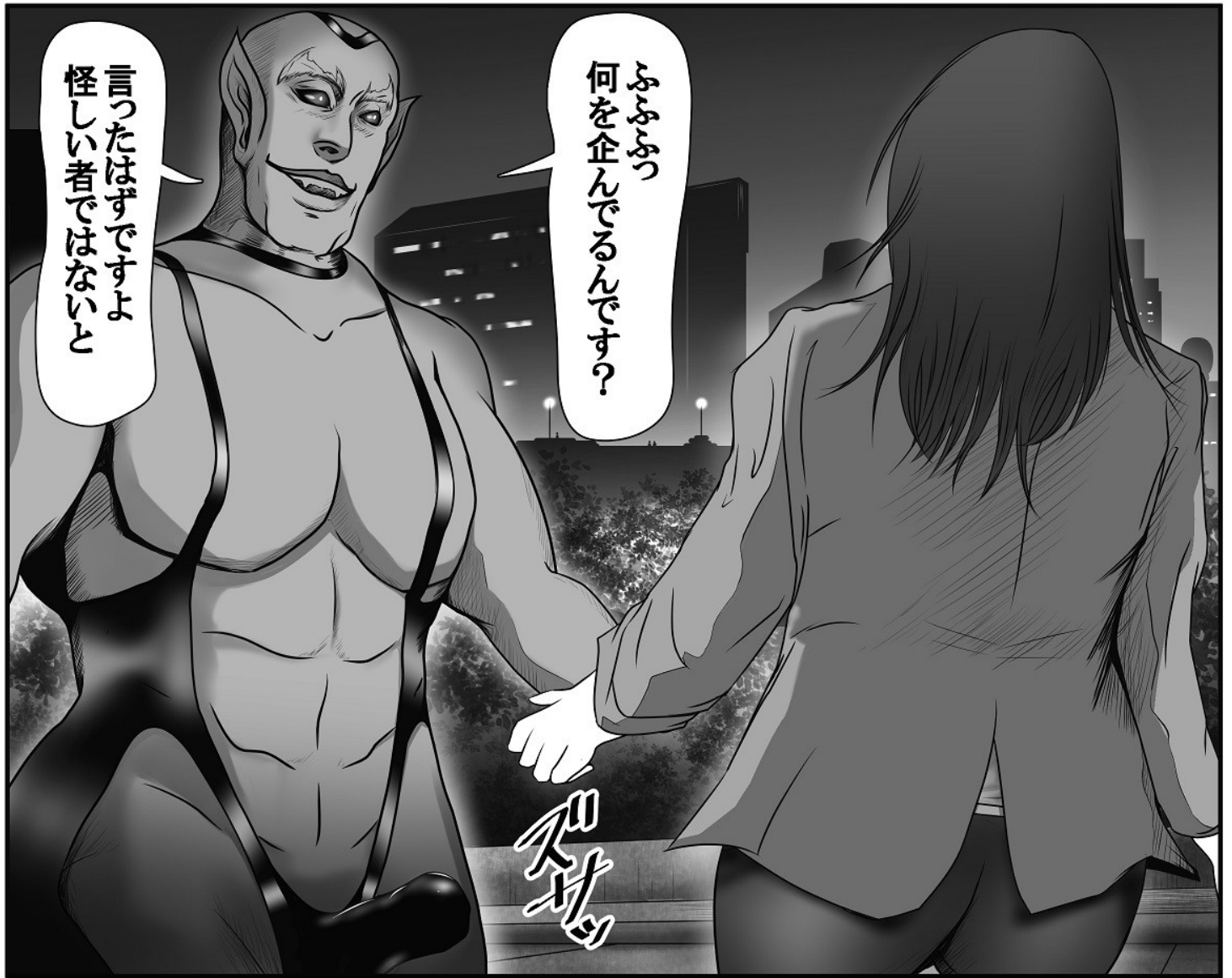
こんな危なそうな奴が……

どうする……

彩乃さんに連絡しても
先ず間に合わない

私一人でやるか
それとも……





言ったはずですよ
怪しい者ではないと

ふふふ
何を企んでるんです？

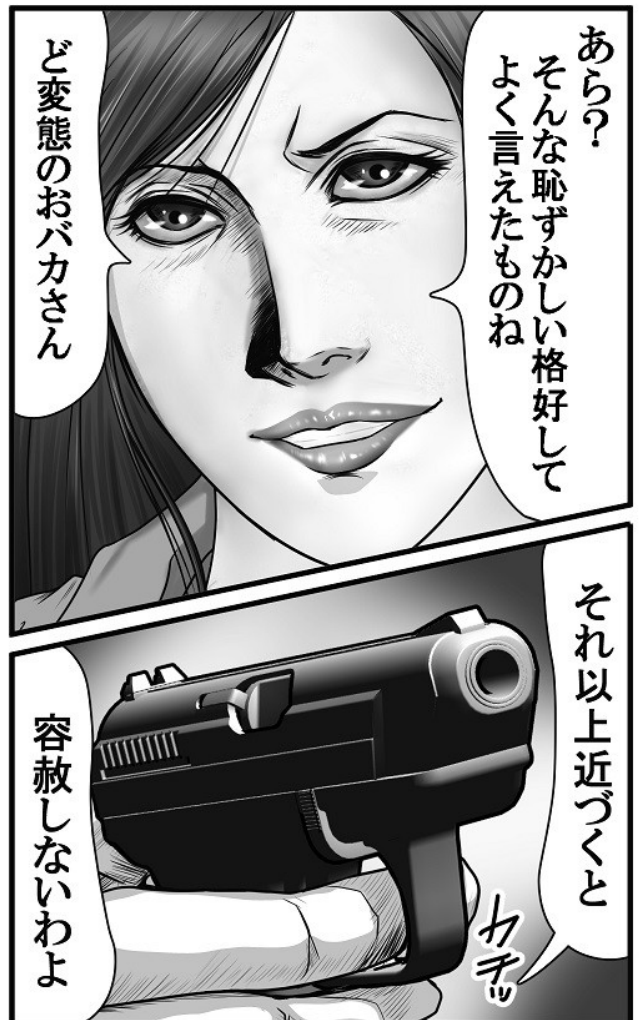
カチッ



これが普通の銃じゃない
ことくらいお分かりでしょ

ほう?!これはまた
物騒なモノをお持ちだ

分かったら
大人しくすることね



あらう?
そんな恥ずかしい格好して
よく言えたものね

ど変態のおバカさん

それ以上近づくと

容赦しないわよ

カチッ

さすがに妖魔には
容赦ありませんな

あっ!?

だが

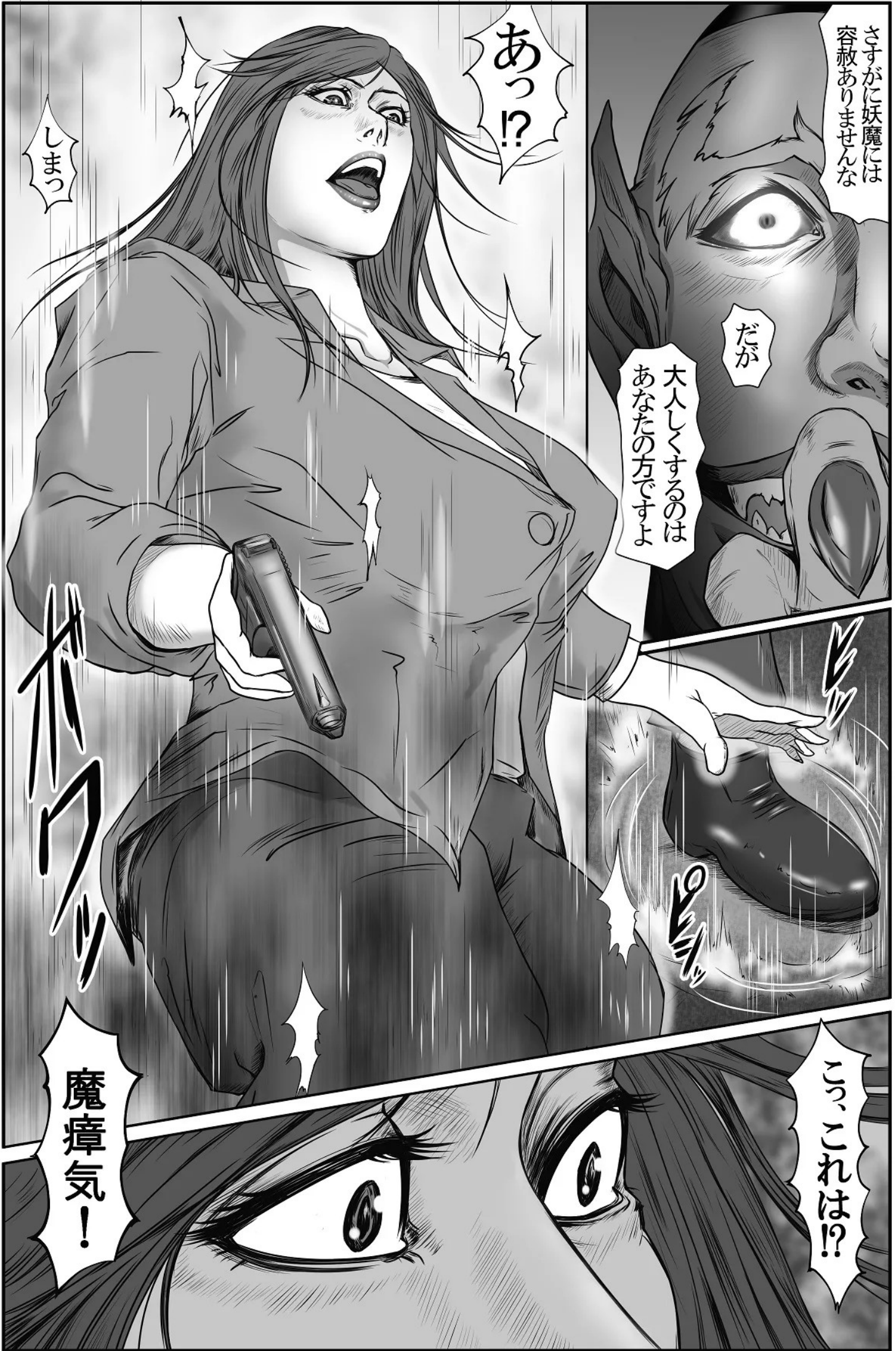
大人しくするのは
あなたの方ですよ

しまった

クワッ

魔瘴気!

こっこれは!?

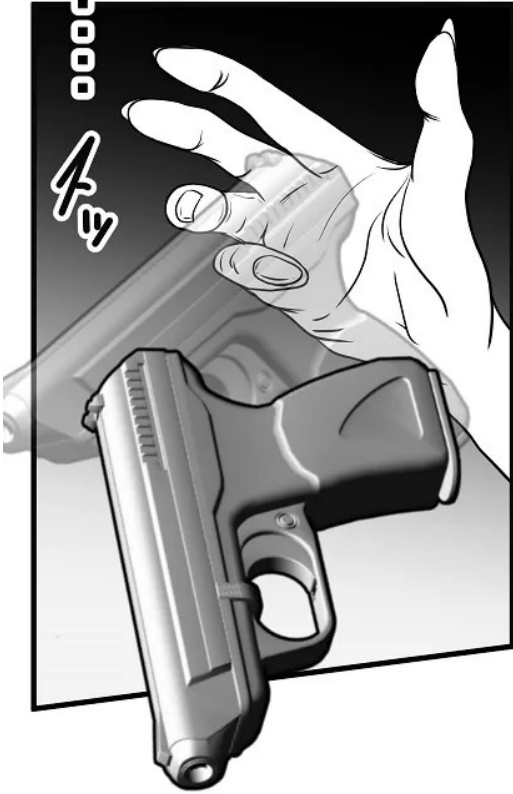




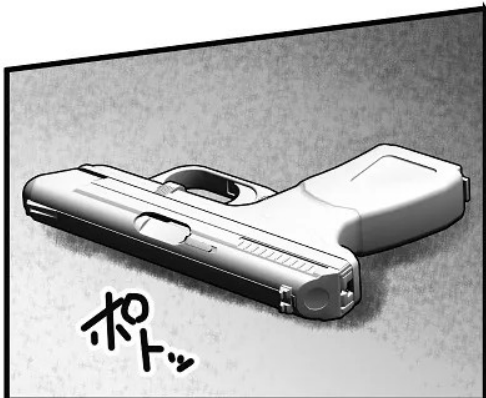
吸ってはダメ

。。。ダメ

なのに



。。。
クエ



ホトッ



あ

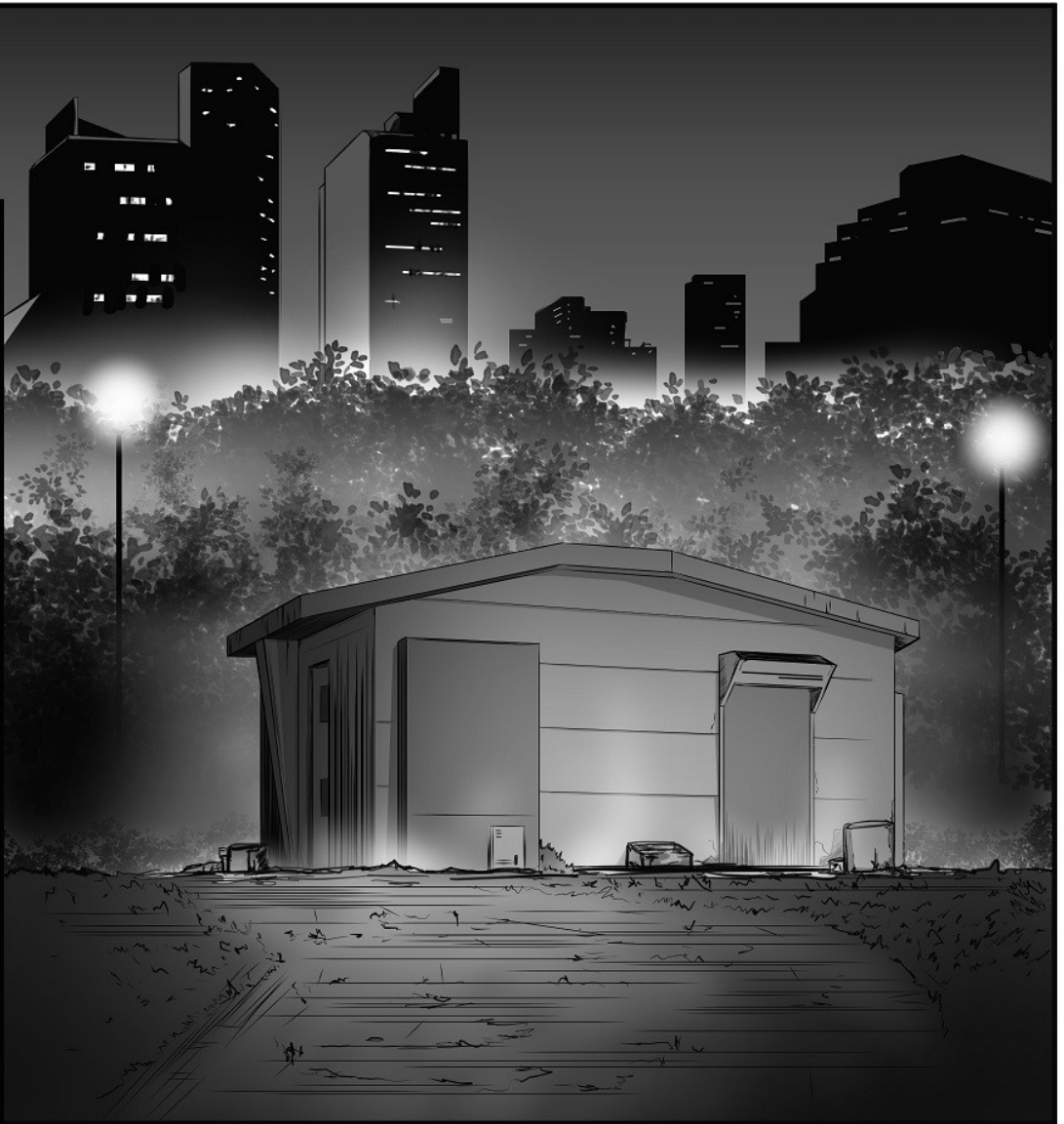
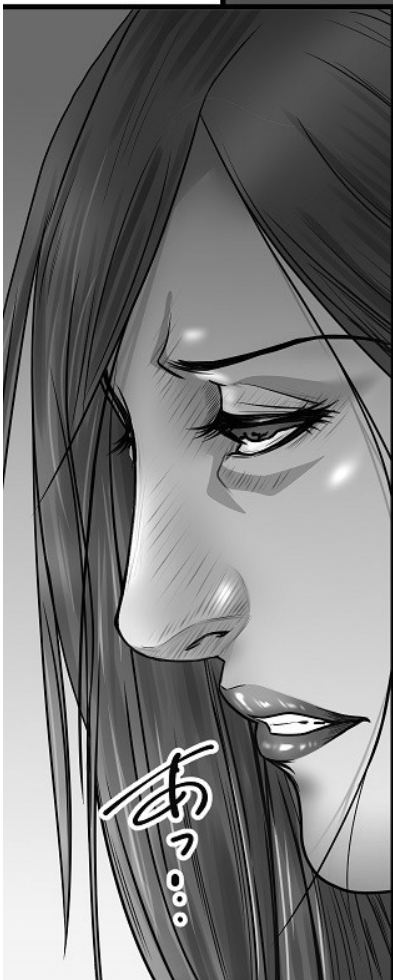
あああああ！

クックツ愚か者め
人間風情が我らに
刃向かうなど百万年早いわ



だが思った通り
良い匂いにする女だぜ

こりや上手く躰^{しげ}れば
こちら側のとびきりの
メスになるかもしれねーな



イブアーク ドウエ
ズウエゲエウアク
イギ アアエエフアム
デアア ギブアール

oooooooooooooooo

はああ……でも良い匂い

こ isstev mark kn

tomik to isstev

うはは……何なの？
この頭のままに
響いている妖い声

ああ……

うはは……

うはは……地獄……

聞かせるなぞ
おもしろい……

イギ アアエエフアム

トイア、ギブアール

トイア 聞かす

我が意思に呼応し

盟約の禁呪を
高らかに唱えよ

こ……こ……こ……

isstev mark kn……

ああああ……

……この呪文みたな変な声

私なの……私の声なの？

私……何……

ああ……うはは……今までの……

この声に従う……

イブアーウドゥエ

スウエゲエウアウ

イギ アサエブアム

ディア ギブアール



イルギゲオドワール

ゲオオルギゲオドワール

ぞうごだ

お前は自由だ

モラルや理性など捨て
この本能にのみ従え

何も考えず
愚ろがままに
快楽をむさぼれ

あ

あ

さあ野性を目覚めよ
下品な本性をさらけ出せ

グ

グ

この心の内にある浅ましいき
色と欲を今こそ解き放ち

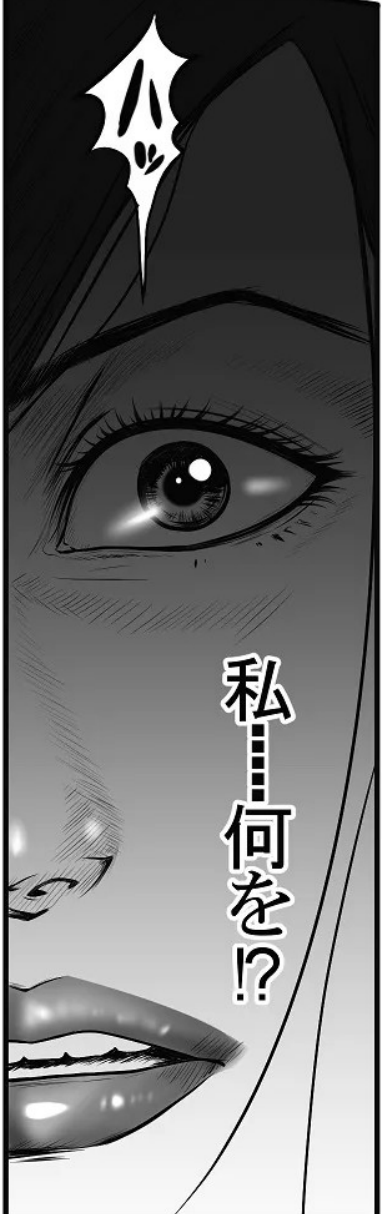
血肉をばへん

精神をけがし



メスとなれ

闇に待るに相成しき
粗悪でふしだらな



私…何を!?



あ

おちよー!

あ

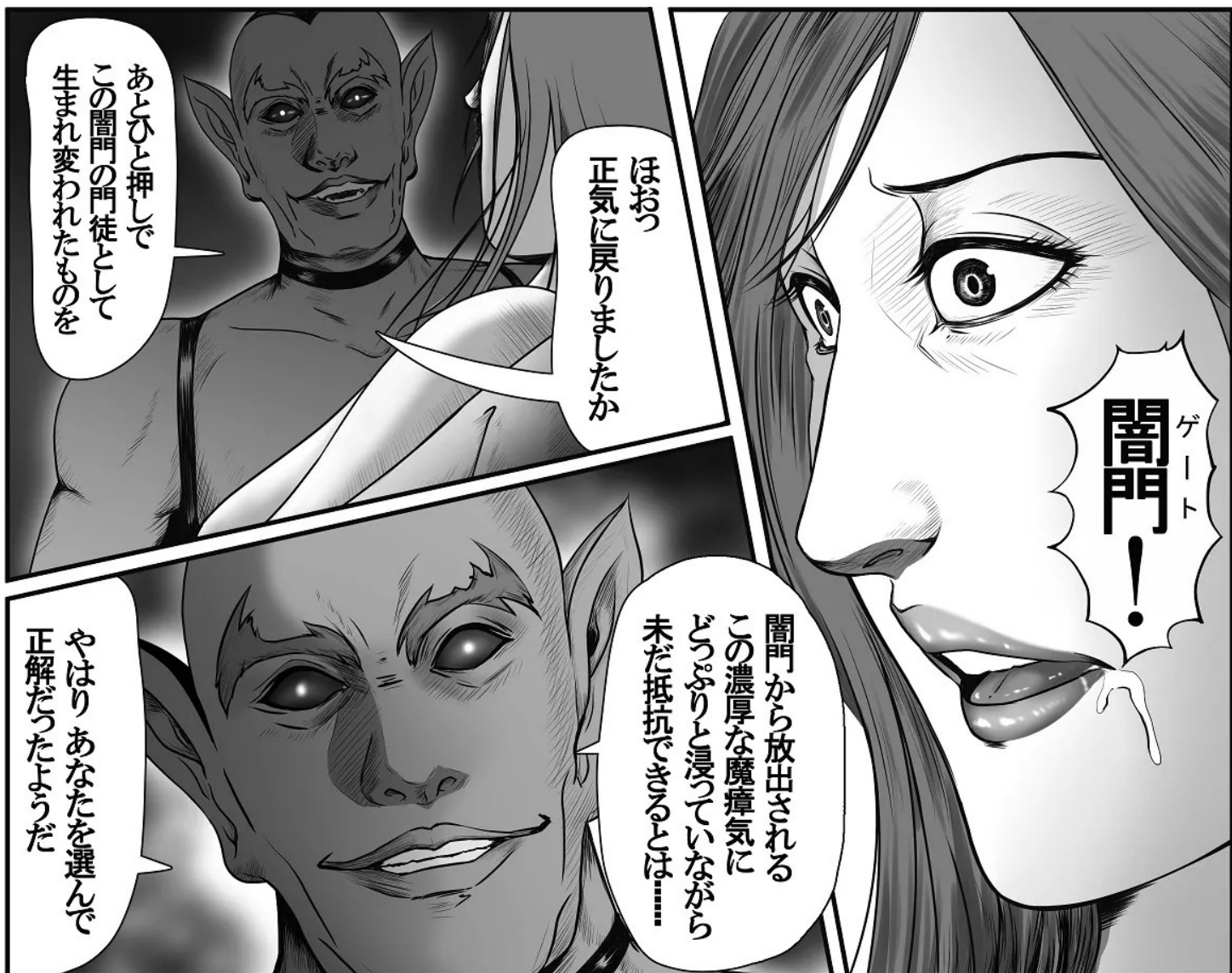


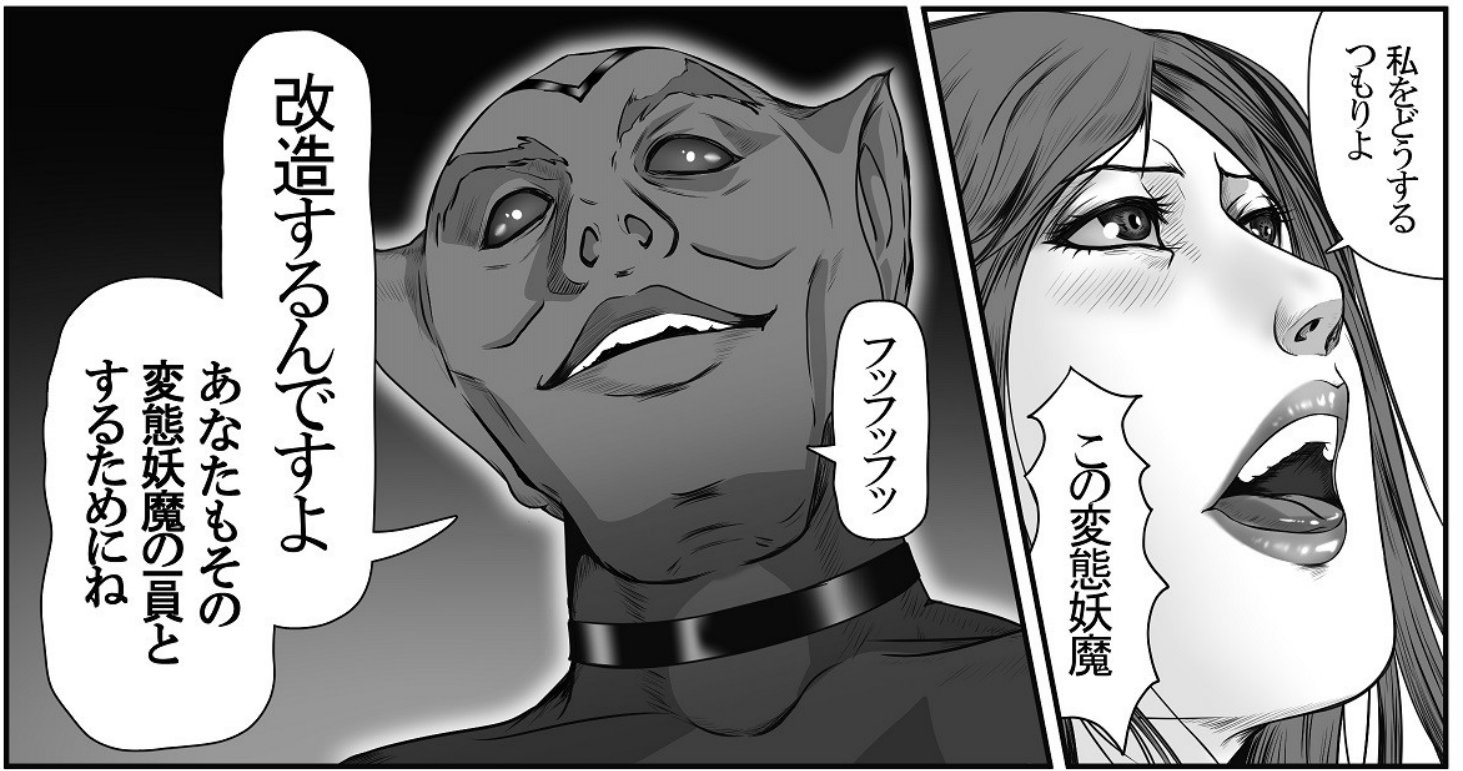
おちよ

おちよ

あ

あ





私をどうするつもりよ

この変態妖魔

フッフッフ

改造するんですよ

あなたもその変態妖魔の員とするためにね



ほおら御覧なさい
閻門も喜んでいきます

あなたのような優れた素材を手に入れて



おや!?
もうお忘れですか

さっきまで自分が何をやってたか

フッフ
素敵でしたよ

その豊富な肉体が淫靡にのたうつ様は



かっ...
改造って!?

だれが
変態なんか

我々はずっと探していたのです
この閻門の番人となり得る
有能な血肉をね

そしてようやく見付けた
あなたという
非常に優れた素材を

その麗しき容姿、豊満な肉体
そして妖魔にも臆さぬ強い精神力
どれをとっても資質としては十分だ

それはまさに魔傀などいう雑魚ざいごではなく
閻門ゲートを守護する妖魔とするに相応しい

フツッ怖がることはない
これは素晴らしい幸運なのですよ
あなたは選ばれたのです
そしてすぐに心から実感するようになる
妖魔の素晴らしさをね

そっ そんな……

さあ、今度こそどっかへと連れて
堕ちてもらいますよ
そして生まれ変わるのです

我々のために総てを捧げて尽くす
淫乱で強欲な変態妖魔に



こんなに清楚で美しいあなたが
どれほど淫乱な妖魔に成り果て
この凶悪チ○ポを欲しがるとよ様に
なるのか……想像するだけで

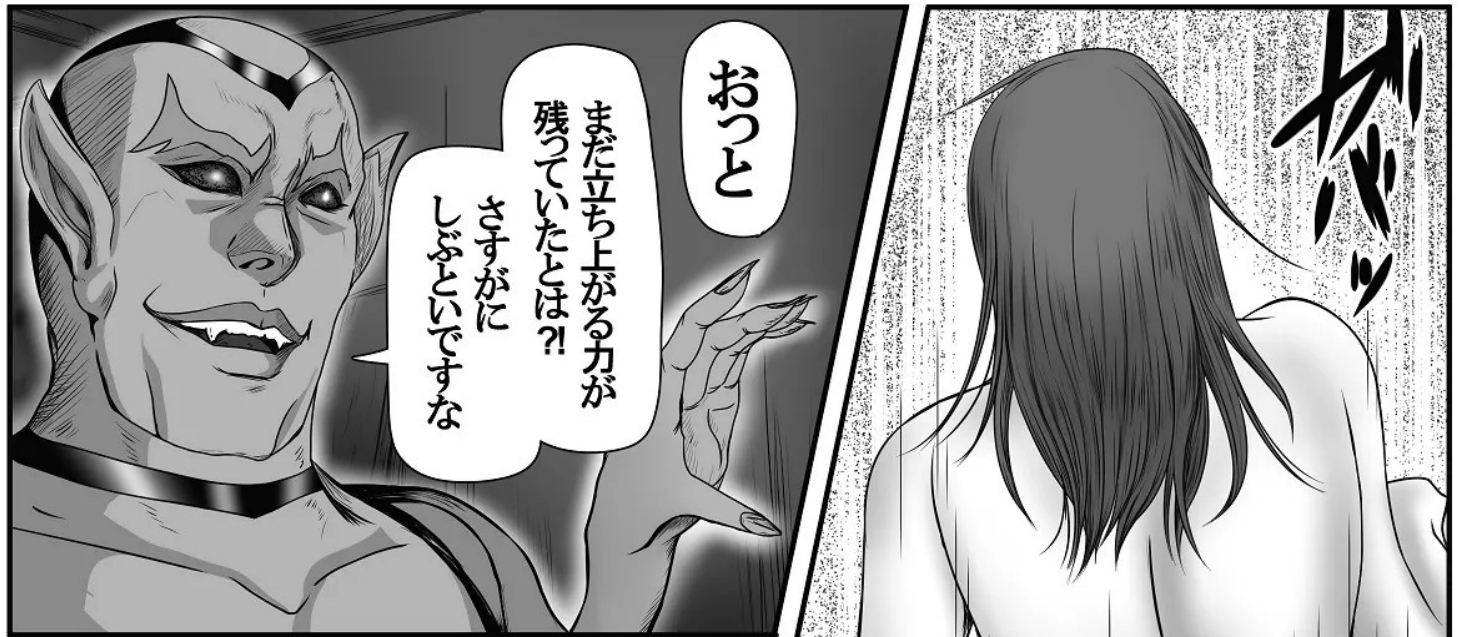
ほおらまた勃つてきた

フツフツ
愉しみですねえ

くっ……
誰がそんな汚いもの

でもなんとかしなきゃ……

このままでは……

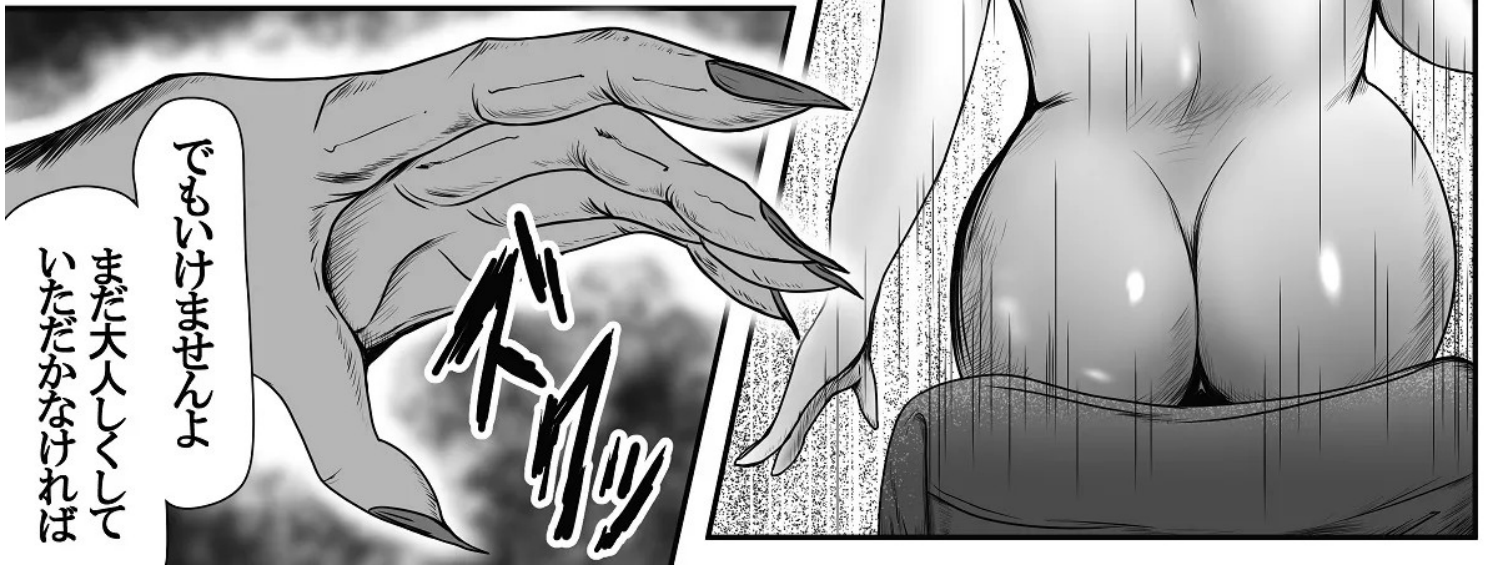


おっと

まだ立ち上がる力が
残っていたとは?!

さすがに
しんどいですな

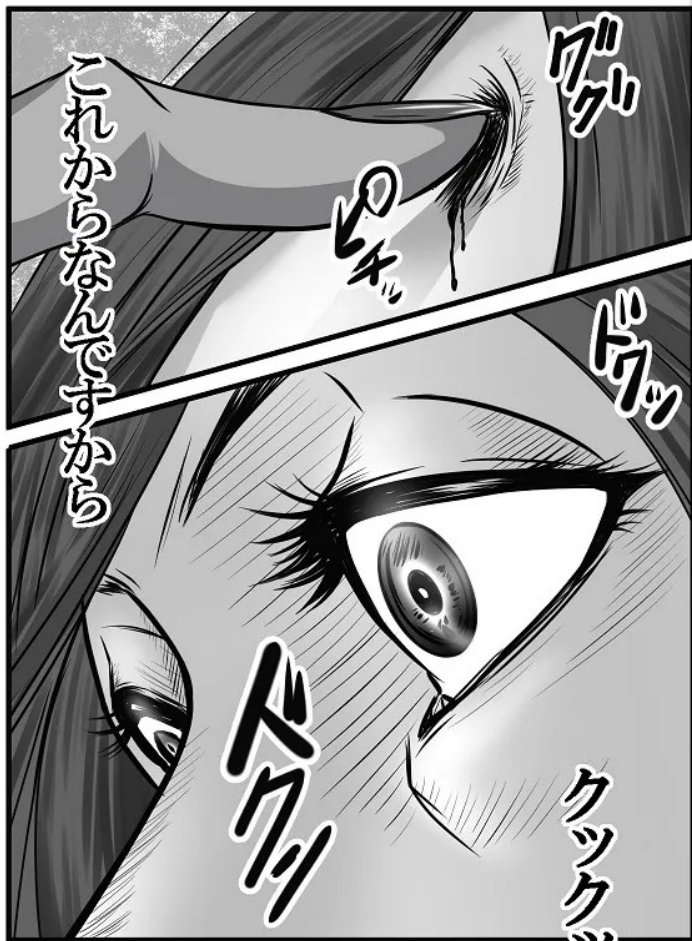
カッ



でもいけませんよ

まだ大人しくして
いただかなければ

カッ

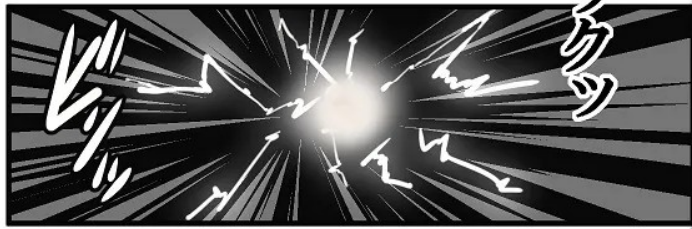


これからなんですから



お愉しみは

のび



うっ……うっうっ
なっなにを

私の変態性癖を
プレゼントして
差し上げるんですよ

魔瘴気にたっぷりと
侵されたその心と体にね

さあ 秋月彰子よ
お前は今日から
生まれ変わるのだ



ん……んや

げーと
闇門に仕える
この門番ガロンの
忠実な隷として

身体の隅々まで

フッフッ
心配するな
最高だぞ

やめて！

頭だけではなく

俺の邪悪な思念で侵される気分は





はあああっ！

かっ！

なんなのよこれ！





我が声に灰じよ

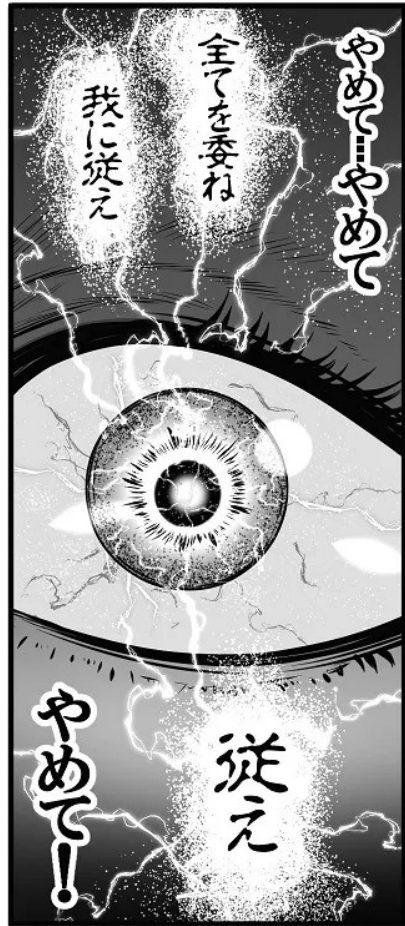
さあ我が声を聞け



従え

いやあああう

従え！



やめてやめて

全てを委ね

我に従え

やめて！

従え



はっあああ

お前は
我が血肉なり

我が一部なり

我こそがお前の全て

お前の正義

まっまた
この声



いっせんなの！

我がメスよ！

うそよ！

あ

はあああああ

あああああ

クツクツクツ これでまた一つ

新たな闇が開いた

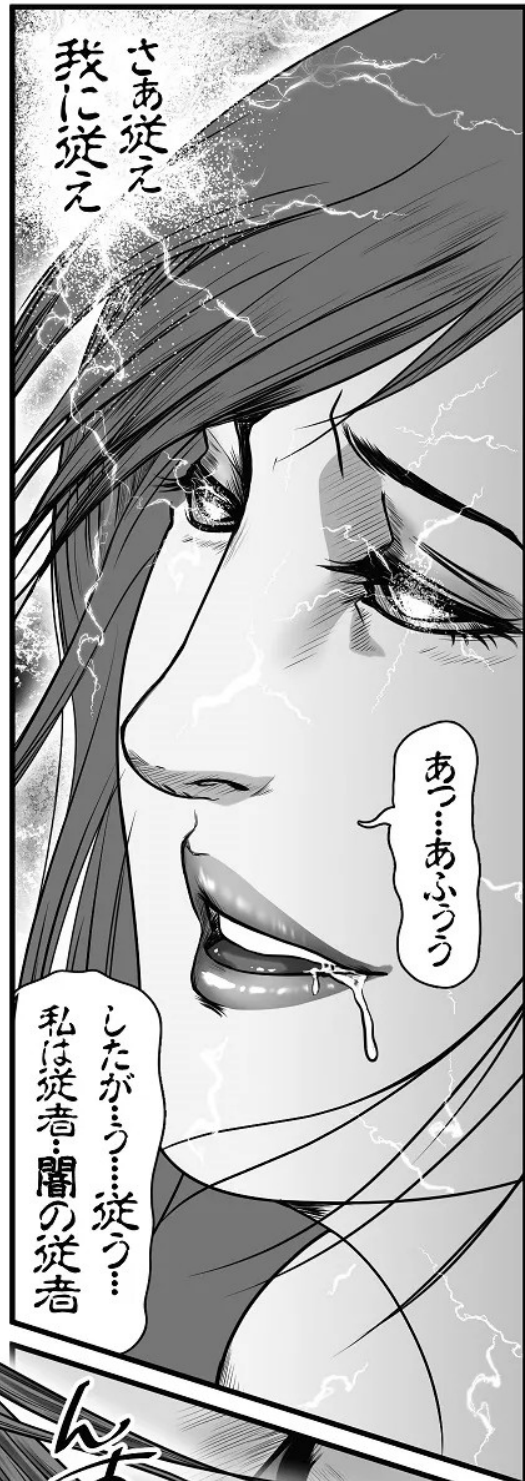




フッフッフッフ
その貌はようやく
堕ちたようだな

ならば捧げよ
快樂と欲望に痴れ狂い
お前の総てを捧げよ！

お



さあ従え
我に従え

あつ…あふつ

したが…う…従う…
私は従者・闇の従者



はう…はあい

ささげ…ます

んあ

あ

が

ん



さあ凶悪なる闇に
目覚めし新たな従者よ

もはやお前は
我らの一部

今こそその闇を解放し
我に忠実なメスとなれ

この身の総てを^{すべ}

捧げます！

ほま

んほ

あ

ゲッ

げ

はあっああああああ

あ



フッフツ そうだ
それでいい

お前は淫乱なのだ

それがお前の本性
お前の望み!

俺と姦^やる事しか
頭にない強欲で

野蛮なメスなのだ

野蛮な...メス

は...はあい
私は.....

私は淫乱

強欲で...

クツクツクツ
トホ

これでー

下ごしらえは完了だ

あとはこの躰を思う存分貪り尽くし
この俺に相應しい

お

あざん

ガハッ

うま

プク

カズ

ど淫乱の変態女に
造り変えてやる!

あつ、ああ…
ダメだ

止められない……

どんだん
おかしくなっていく自分を

暴走していくこの身を

はあああ……でも

すごく
気持ちいい

あま

んん

んん

あ
カッ
カッ

ほま

もっ

もっ
と欲しい

カッ
カッ

んん

カッ
カッ

あ

カッ
カッ

んん

もっ

カッ
カッ

もっ
とおお

カッ
カッ



はあんああつ

もつと欲しい

グワッ

ガッ

もつと虐めて
欲しいのおお



あああつ
気持ちいい

自分の欲望に忠実になるのが
すごくすごく気持ちいい

クッククック
そんな卑猥に瞳を濡らしやがって
本性を吐き出してすつきりしたか

だがそれでいいのだ

おまえはもう我等と同じ
忠実なる闇の従者
どんな醜態を晒そうと
どんなに破廉恥になろうと
何もかもが許される。
さあもつとお前の本性を
この俺の前でさらけ出せ！

はあ…

はい

フツフツフツ そうか

これがお前の
本性というわけか

だが脂ののった良いケツだ

やはり熟れ頃の女のケツは
これぐらいの迫力がねーと
いけねーな

こりゃあ
ぶち込み甲斐が
ありそうだけ

バック責めをご所望とは
お前もマゾっ気たつぷりじゃねーか

ほ

ほま

ん

ん

ん

じゃあ
ご要望にお応えして

アハハハ

こいつで思う存分
可愛がってやろう

グクグク

おまえもすぐに気に入るぜ

そして虜となる

人間ごときでは
比べ物にならない

ムズムズ

我ら妖魔との

凄まじき
肉の悦びのな!

どうだ？凶悪な逸物だろう
だが見た目以上に破壊力は抜群だ

ククク

ムズ

ムズ



あゝ

あゝ
あゝ
あゝ

あゝ
あゝ



フツツどうだ？
俺の言った通り
最高のチ○ポだろう

お前がどれほど
優秀な刑事であろうと

我ら妖魔にどれほどの
憎しみを抱いていようと

こいつの味を知れば
そんなくだらぬ
正義感や矜持など
一瞬で瓦解する



だがこんなのは
まだ序の口にすぎん

ほおおれ



んっ
はっ

んっ
はっ



ククツいい声で
啼きやがる
そんなによいか

なら自分から
ケツを揺すつて
快樂を貪ってみろ

そうすればすぐに
頭から何もかも
ぶっ飛んで楽になる

あーあーあー

あーあーあー



そうだその調子だ
さあ全て忘れろ

ただ己が欲望だけを
喰らい受け入れよ

お前はメスだ

この俺の忠実なメスなのだ!

あー

あー

私は……

ギ
い
い
っ

私は……

い
っ

イ
ッ
ク
っ

私
は
メ
ス
!

は
あ
あ

き
っ
……
気
持
ち
い
い
い



ゴ

カ

クツクツクツ

俺のメスになることを
受け入れた途端イッたか

しかも盛大に潮まで
噴きやがるとは

大した淫乱ぶりだな

はああ…ああ
すつ…すつ…

ブル

ヒョ

ズ

イン

ブル

だがそれでいいのだ

ブル

ブル

カ

ブル

己の邪な魔性に従い
快樂を食れば食るほど
お前の魂は穢れ もはや
剥き出しの欲望しか持たぬ
魔性の塊と化していく

さあもうと善がれもうと狂え
そして貪り尽くせ

お前はメスだ
この俺のメスだ

カ

ゴ

淫乱で強欲なメスなのだ

さあ解き放て

己の業を闇を

この闇門の門番ガロンの
ゲート
忠実なメスとなれ

心に巢食う
禍々しき魔性を！

そして

勢

ビクッ

あつ…あああ
私はメス…

ガロン様の…
…忠実な

忠実なメス!

あつあつ

あつあつ

ひい

あひっ

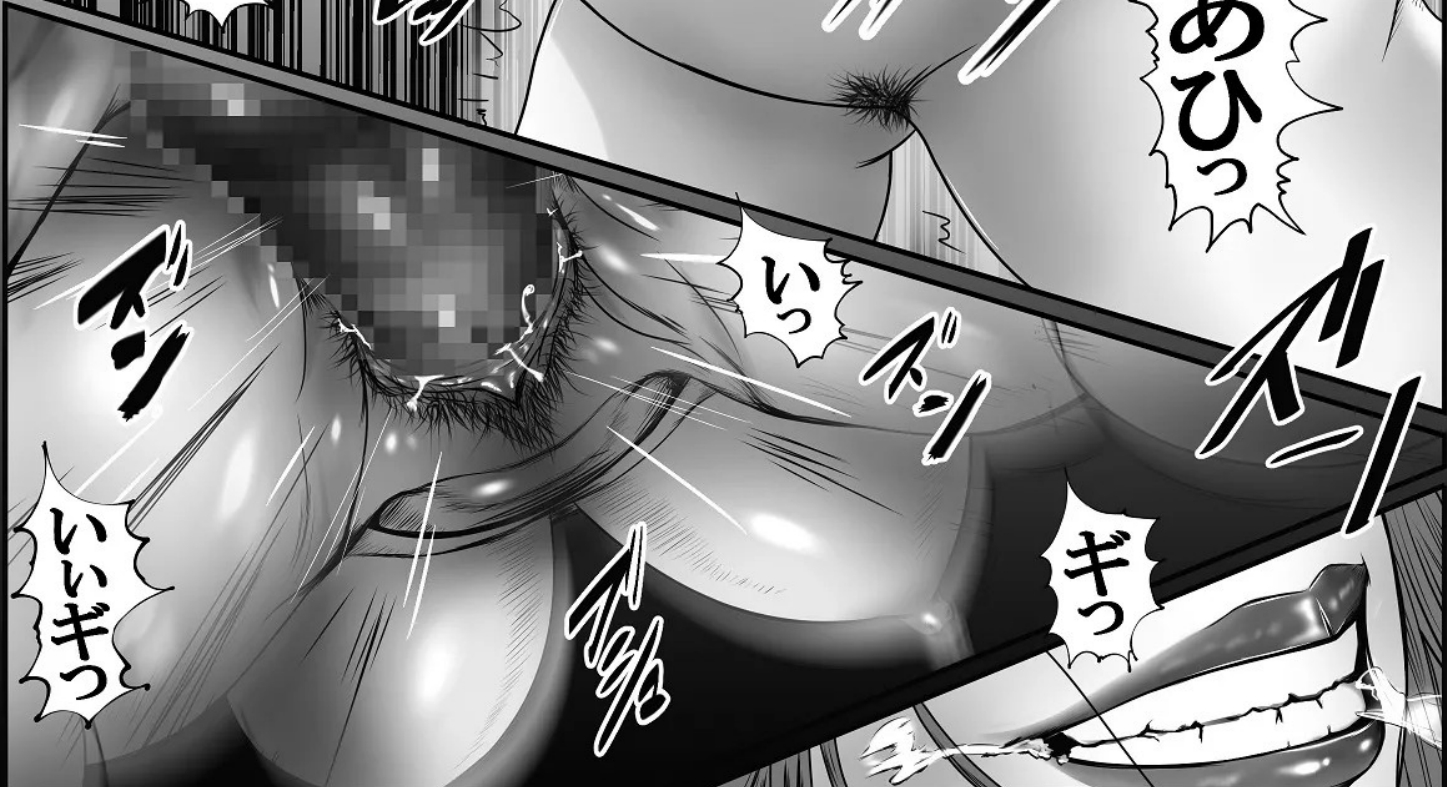
いっ

あつ

きっ

いっ

あつあつ





がひっ!

ひっ

と

グハッ

グハッ

グハッ

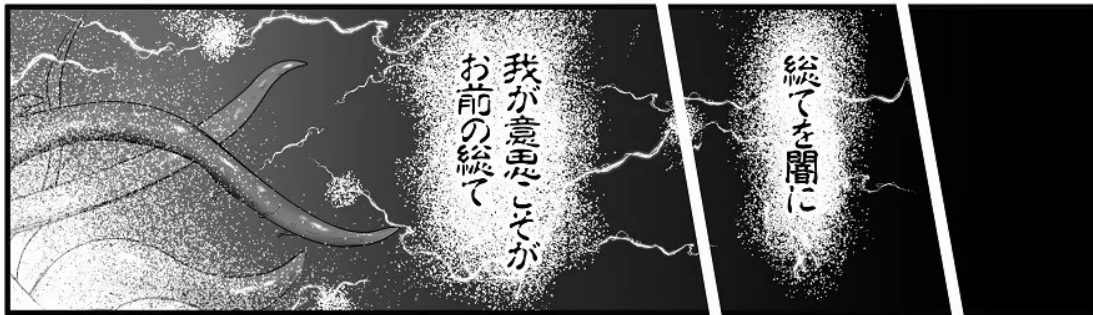
グハッ

グハッ

グハッ

グハッ

グハッ



総てを闇に

我が意思こそが
お前の総て



はい

あま

はま

んっ

総てを闇に
この声こそが
私の総て

私への凌辱と洗脳は
延々と続けられていた
一度折れてしまった私の意思は
悪魔の姦言かんげんを容易に受け入れ
今や脳の奥深くまで侵される
その異常な感覚に快感すら
見出すようになっていた



そうだ

服従こそが
お前の望み
お前の喜び

お前の総ては
我が闇門のために

はい

もはやそれは洗脳というより

私の総ては
闇門ゲートのために

服従こそが
私の望み
私の喜び

強固な精神改造だった

己の本性を
引き出しにして

それでよい

あま

ならば
好きなだけ

ぬおっ

浅ましき欲望を
満たすがよい

んあああっちようだい
もいもいよさよらうだいいい

したいのお！
もいもいよさよらうだいいいのおお

あああ沈んでいく

心がどんどん深い深い闇の中だ
沈み込んでいく

あが

はああ……でも

でも……

でもそれが

堪らなく気持ちいい！

グッ

グッ

んん

グッ

グッ



私は悪魔の快楽に溺れた

もっとももっとと欲した

もう言われるがまま
成されるがままだった

欲しがれば欲しがると
軀の感度は鋭敏になり
悦びは段と膨れ上がった

だが同時にそれは、
私の中から正義感や良識
という人間性を奪い去り

心に蠢く黒くドロドロした
ものを無尽蔵に増幅させ
悪への恭順をより絶対的な
ものへと変えていった

おたまが
かわるほどに
なるの*



素晴らしい交わりだった
凄まじい肉の悦びだった

ズンズン響いて
気持ちいいのお

それはもはや私を別のモノに
造り変える強烈な麻薬
いや凶悪な劇薬そのものだった
私はその全てを受け入れた

最高だった
幸せだった
私は総てを放棄し
その悪魔の快樂に
身も心も差し出した

直後私の総ては
凶悪な狂喜色に塗り潰された

頭の中はおぞましき快樂に染まり切り
肉体は猛烈な性欲に烈しく燃え盛った

それはまさしく私の人としての終わりを意味していた
私は欲した　そして心の有りのままを吐き出して懇願した

はあああああ！
私はガロン様のもの
ガロン様のメス！

忠誠を誓います
何でも言うことを聞きます
だから…だから

もいとおいてー！

もいとおいてー！



んんあああああ
すっ、すごいいいい

突き抜けてくる！
下から…下から

私はそれから何時間も
犯され続けた

クククツ滾りおつて
そんなに俺のチンポが
気にいったか

もはや餓えたメス獣だな

頭のでっぺんまでズンズン
突き抜けてくるのおお

でも噴き上がる性欲が尽きるのではなく
むしろ際限なく膨れ上がっていった



どうまで堕ちたってかまわない!

あゝ

グッ

グッ

グッ



グウエツッ!

グッ

グッ

グッ

グッ

いぞおお

グッ



だがそれでいい

その醜き強欲さこそが
お前という存在を
根底から覆す糧となる

あああつすごい

最高だわ

こんなになぁ...こんなになぁイイのなら



あう

あえう!



ほい

ほい

ほい

ほおじい

ワッハッハッハッ!

ならば望め

大いなる闇の力と
凶悪なる意思を

我等への絶対の忠誠と
永劫の服従を誓い

お前の総てを捧げて

絶対の忠誠と

この至福の悦びを
手に入れるのだー!!

はああいいいいー!

永劫の服従を!

最高なのお

だから誓いますー!

私の全てを捧げて
お仕えしますうら

イイの

イイの!

ホタッ

イイの!

ポト

ホタッ

ポト

ポト



おらばお前にも



我が闇の力を授けよ



ぶかろろ

わん

わん

わん

おひっ

おっ

融けてくるの

私の…私の内にいい

ハアでも

気持ちいいいいい!

んんはああああああつ

なっ…なにこれえ

融けてくる

これが魔改造よ

くくつそうか
気持ちいいか

さあ
存分に味わえ



そして心の底 血肉の隅々まで

この凶悪な妖気で食い潰され



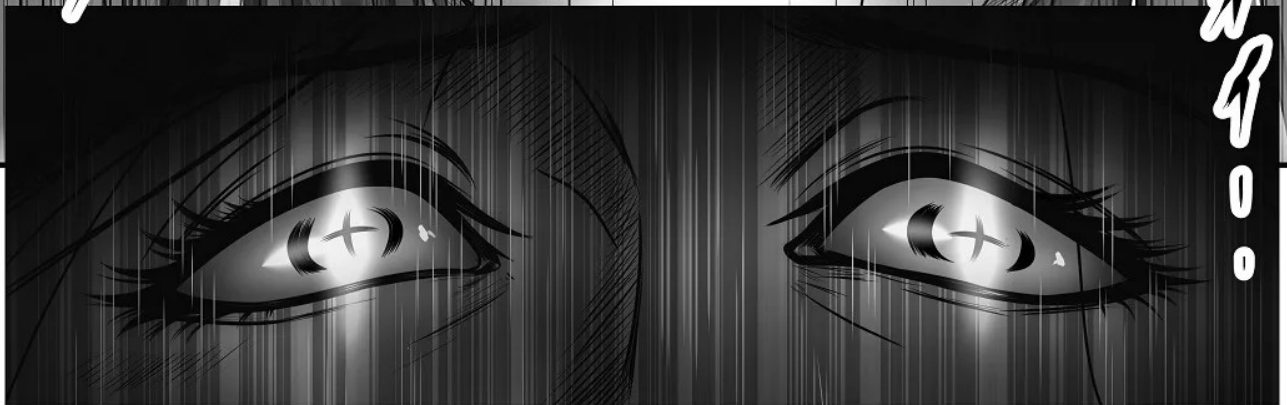
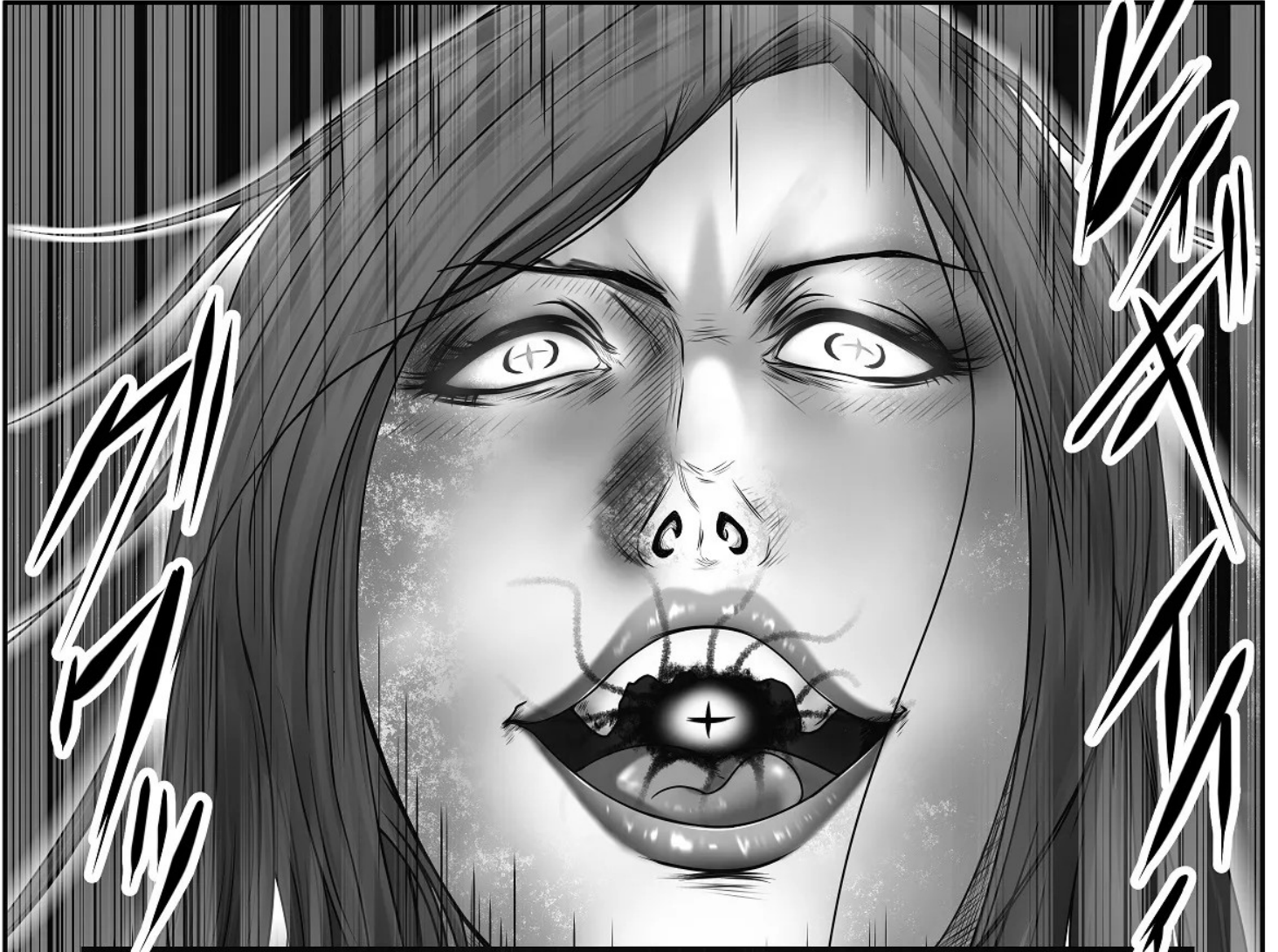
閻門マニマニに仕える凶悪な妖魔へと

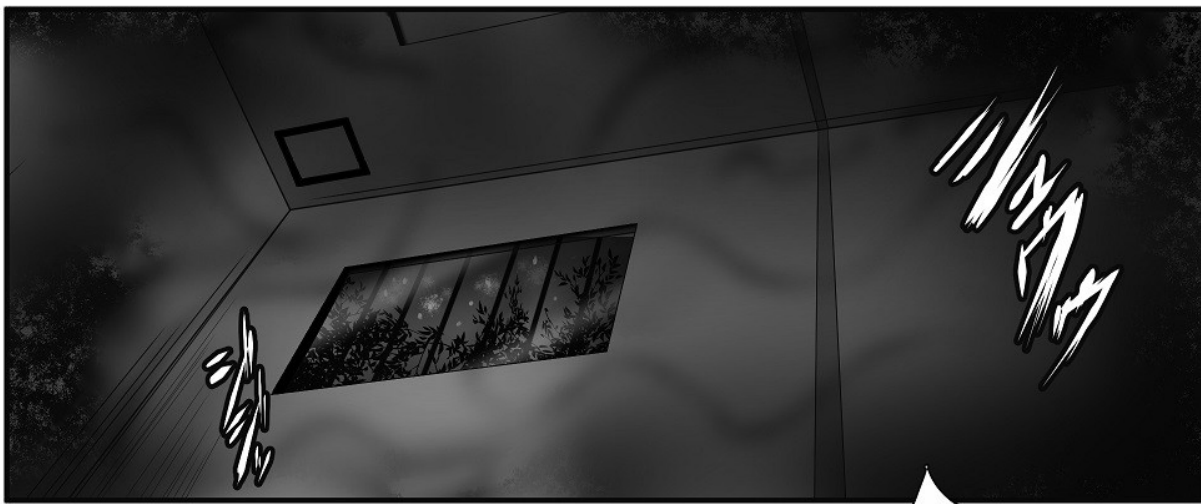
成り果てるのだああ！

はあっ！

はああ！

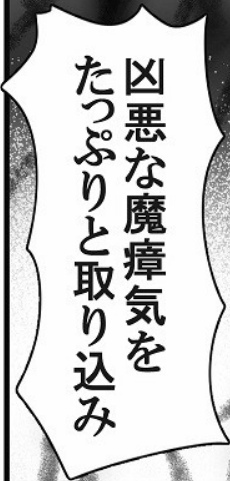
はあぎんぎん！！





さすがは退魔の心得がある女だけのことはある

人間とはいえ



凶悪な魔瘴気をたつぷりと取り込み



クツクツクツ
実に素晴らしい

完膚なきまでに
穢けがされた肉体に



見事な魔体に成り果ておったわ！

おもしろいよ吸ってみたいわ！



このガロンの濃厚な妖魔の精と
狂気に満ちた悪意を存分に吸収し
務めを果たす糧となせ！



はあああうううう！
あう 頭の中がピキピキして

ギッ
ギモヂ
イイイイイ

ああこれが

これが支配される悦び！

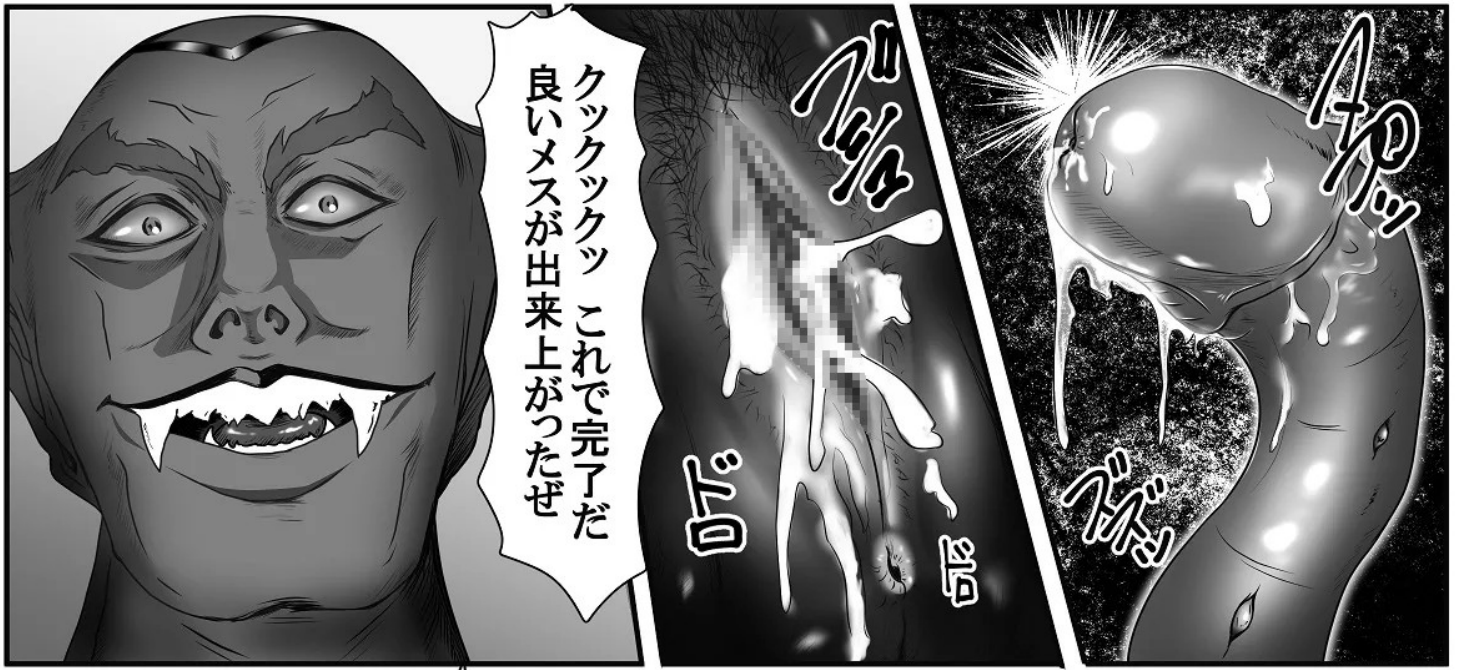
素晴らしい

狂えるほどに

素晴らしい

素晴らしいわあ

魔の一体となる最高の至福



クックククツ これで完了だ
良いメスが出来上がったぜ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ



まさにお前はこの俺の
精と悪意によって生み出された
邪悪な欲望の化身そのもの

アッ

さあ目覚めよ

そして務めを果たせ

我が忠実なる隷

アッ

アッ



ゲイト
闇門の門番ガロンヌよ

はあい
ガロン様

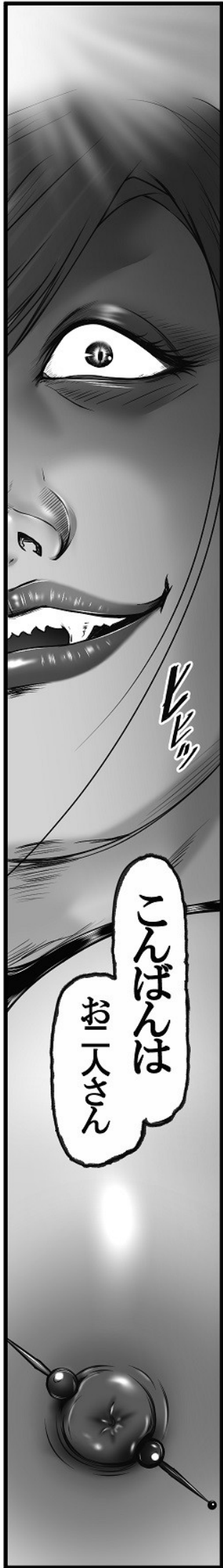
全てはガロン様と
ゲイト
我々が闇門のために



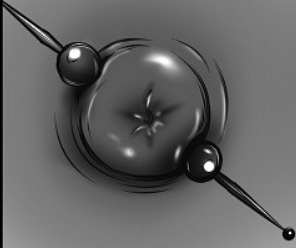


突然 お邪魔して
ごめんなさいね

でも
こんな夜更けに
デートなんて
羨ましいわあ



こんばんは
お入さん





なつ……なんだよ
あんた!?

そつちこそこんな時間に
なんて格好して歩いてんだよ

まっ……まさるさん
相手にしちゃだめよ

頭おかしいのよ
この女の人



これは申し遅れました

私は通りすがりの
変態女IIシヨウコ

またの名を

ゲート
闇門の番人ガロンヌ



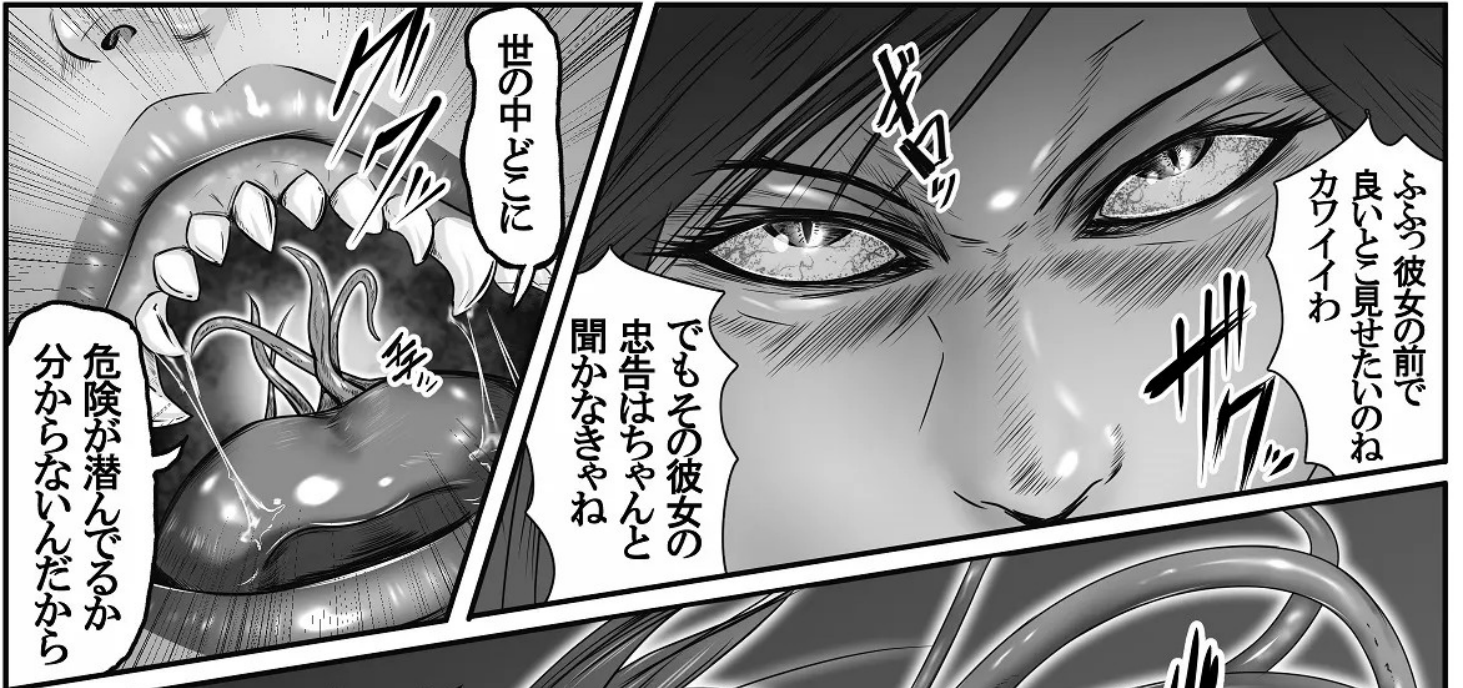
あらう 言ってくれるじゃない

そんなあんた達だつて
この後どこでハメるか
しか頭に無いくせに

なんだつて
失礼な!

だいたい
なんのつもりだ





ふつと彼女の前で
良いと見せたいのね
カワイイわ

でもその彼女の
忠告はちやんと
聞かなきゃね

井の中ムムム

危険が潜んでるか
分からないんだから



アアア

アアア

アアア

その一夜は益々異乎にして...



うわっ!?
うそだろ

いやっ!
たすう

魔悦の淫門

MAETU NO INMON

～邪淫の門は闇夜に開く～

act01. 美しき女刑事が墮ちる夜 END